


令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立宮浦中学校	校長	今田 大助	担当者名	松岡 雅子
取組事例名		『校内適応指導教室の整備と活用』			
○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
・「伝える力（コミュニケーション能力）」：自分の考えや意見を，相手に伝えることができる。					
取組のねらい					
・不登校，不登校傾向及び特別な支援が必要な生徒への社会的自立を視野に入れた支援の充実					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>○校内適応指導教室を整備し，個々の生徒の実態に応じた個別の学習支援やコミュニケーション能力の育成を行う。</p> 			<p>○居心地の良いスペースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がリラックスしたり居心地の良さを感じられたりするように，机や椅子，棚，ロッカーなどを白と黄緑色の柔らかいトーンで統一した。また，個別で学習や作業したい時のために個別ブースを配置した。 <p>○コミュニケーションを取る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常は会話しやすいように，長机をコの字型で配置している。「絵しりとり」を取り入れ，通室時間の違いで会えないメンバーや教職員などとのつながり作りや会話の糸口に役立てている。 		
取組の成果と課題					
<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のための非常変災による出席停止措置があり，単純には比較できないが，2月15日現在，不登校生徒の出現率は前年比マイナス2%，不登校生徒数は前年度より7人，長期欠席者は18人減っている。</p> <p>・校内適応指導教室を整備し，学校ふれあい相談員や教育相談担当が適応指導教室に在室する時間が確保され，活用できる時間が増えたことにより，不登校生徒がいつでも安心して登校できる環境づくりが促進された。また，SC・SSWは来校時には適応指導教室を訪れ，生徒の様子を観察したり，話をしたりとコミュニケーションを積極的に行っている。</p> <p>・個別最適な学習課題について，一人一人の特性や状況を見取り設定することに難しさを感じる。今後はICT機器やタブレットを活用した学習も取り入れていきたい。また，校内適応教室の活用や生徒支援について，全校でより共通認識を深めていくことが課題である。</p>					